

(本メールマガジンは、これまで日越大学構想に関するセミナー・会議等に参加された方や、名刺交換させていただいた方々にお送りしております。)

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学です。2016年9月にベトナム・ハノイで開校しました。現在修士課程に約150名の学生が在籍し、日本語と英語を学び、MBA・公共政策・地域研究・ナノテクノロジー・環境工学・社会基盤の各専攻プログラムで勉強しています。

皆さん、こんにちは！日越大学構想・国内支援事務局です。

本メールマガジンでは、毎月1回、日越大学の近況や日越大学を取り巻くベトナムの状況について、読者の皆様にお届けいたします。このメルマガを通して、もっとたくさんの方に日越大学のことを知っていただきたいと思っています。

## 【今月のトピックス】

### 1 日越大学ニュース

#### ・2017年度日本留学フェアに参加

独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO)が主催する同フェアに今年初めて日越大学が参加しました。9月30日にホーチミン市内で開催されたフェアには1,603名の学生が集まり、本学から用意したパンフレット、各プログラムリーフレットがあつという間に無くなるなど、関心の高さがうかがえる内容となりました。また、10月1日にハノイ市内で開催されたフェアには1,667名の学生が集まり、日越大学ブースへ相談に来た約80名の学生に対し、6名のスタッフが熱心に対応しました。本フェアの様子については、在ベトナム日本国大使館のホームページでも取り上げていただきました。

[http://www.vn.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/Jasso\\_Nihonryugakufea\\_2017.html](http://www.vn.emb-japan.go.jp/itpr_ja/Jasso_Nihonryugakufea_2017.html)

#### ・日本でのインターンシップ実施中

9月より全6プログラムで実施されている日本でのインターンシップの様子について、今号から3回にわたって紹介いたします。今号では、9月10日に日本へ出発した社会基盤プログラムと、同9月19日出発の地域研究プログラムの様子をお伝えします。

#### (地域研究プログラム)

地域研究プログラム・日本研究所属の学生 5 名がインターンシップに出発してから、約 2 週間が経ちました。彼女たちは現在、東京大学大学院総合文化研究科にて日本研究に関する講義を受講したり、各自の修士論文に関する資料収集のために図書館へ通う日々を過ごしています。日本への到着直後から各種オリエンテーションや授業ガイダンスへ参加し、チューターの皆さんとも自身の研究テーマについて活発に議論するなど、積極的な研究活動に励むと同時に、寮での生活にも慣れ、日本での充実した学生生活を送っています。4 か月という限られた滞在期間の中で、五感をフルに使いつつ日本を体感し、日本文化に関する専門家として成長することを期待しています。

一方、地域研究プログラム・ベトナム研究所属の学生 4 名は、10 月 1 日に日本へ出発しました。日本滞在は、全プログラム中最短の約 1 ヶ月間ですが、スケジュールは最も忙しいかもしれません。幹事校である東京大学での講義と修士論文の研究発表会に始まり、その後はベトナム研究の専門家が所属する関東圏、関西圏の 10 大学や研究機関で数日間ずつ指導を受けると共に、修士論文執筆のための資料収集も行います。それらに加え、日本企業・組織への訪問も予定しています。自国を研究対象にする学生達にとっては、それを客体視するための視点と知識を習得できる、濃密でかけがえのない時間になると信じています。

### **(社会基盤プログラム)**

社会基盤プログラム生の日本でのインターンシップは、全プログラムの中で最も早い 9 月 10 日から始まりしました。6 名の学生が JICA 東京センターに宿泊し、配属先である東京大学の研究室に通っています。3 ヶ月のインターンシッププログラムでは、配属先の研究室でゼミに参加し、講義を受け、修士論文に関する企画の深掘り、理論・文献レビュー・データ収集を行う他、横浜港や建設会社の視察も予定されています。1 ヶ月以上経過した現在、学生は日本での生活や通学に慣れ、研究室でのゼミや講義にも出席し、修士論文について研究室の教員と頻繁に打合せを行っています。休日には他プログラムのインターン生と東京近辺を観光するなど、日本での時間を謳歌しています。

### **• 「Green Technologies for Sustainable Water-2017」の開催**

10 月 14 日から 3 日間にわたり、ハノイのパンパシフィックホテルにおいて、日越大学共催のもと、「International Conference on Green Technologies for Sustainable Water 2017」が開催され、日越大学からは中島淳教授を中心に参加しました。開会式では、シドニー工科大学の八オ教授、ベトナム資源環境省環境局のドン副総裁の挨拶に加えて、古田元夫日越大学学長からも地元の主催者を代表して挨拶させていただきました。会議では、持続可能な水利用に向けた最先端の技術に関して 80 件を超える口頭発表およびポスター発表があり、熱心な議論が繰り広げられました。中国をはじめアジアからの参加者が多く、実験室内の研究から実際の処理に応用できる実用研究まで、幅広い研究分野の発表がありました。中でも、エネルギーを回収しながら下水を処理する技

術の最新動向や、水の再利用に向けた新しい技術などの発表に会場は大いに盛り上がりました。閉会にあたり中島淳教授から挨拶が述べられ、今回のシンポジウムにおいて、当該分野において若手研究者が活発に活躍する姿に勇気づけられたとの言葉で締めくくられました。

#### • 「Lunch Break Petit Seminar」の開催

日越大学では、中島淳教授を中心として、毎週水曜日の昼休みに「Lunch Break Petit Seminar」を開催しています。これは、本学での研究活動の活性化を目的として、専任教員の先生方が自身の研究テーマを簡単に紹介するセミナー形式で行われているものです。これまでに発表した専任教員は以下のとおりです。今後も相互啓発と学内活性化を目指し、継続実施してまいります。

- ・グエン・ゴック・ファイ博士（気候変動・開発）
- ・ファム・ティエン・タイン博士（ナノテクノロジー）
- ・グエン・ティー・アン・ハン博士（環境工学）
- ・ヴォン・ティ・ビック・リエン博士（日本語教育）

#### • 立命館大学の日本人学生をインターンとして初めて受入

立命館大学政策科学部 3 年生の高池遼さんが、10 月 16 日から約 2 か月半、日越大学でインターンを行うため来越しました。高池さんは、今年 8 月に日越大学が実施した日本人学生向けイベント「サマープログラム」への参加をきっかけに、日越大学に関心を持ちインターンをすることを決意したそうです。滞在中は、ベトナム語を勉強しながら、日越大学と日本人学生をつなぐための企画を実施する予定です。

## 2 日越大学で働く専門家の紹介

### 【第 5 回：Phan Le Binh 専門家（社会基盤）】

ベトナム・ハノイの日越大学で働く方々を紹介するコーナー。今回は、Phan Le Binh（ファン・レ・ビン）専門家（社会基盤プログラム）をご紹介します。

1973 年ベトナム国ハノイ市生まれ、ホーチミン市育ち。1993 年にホーチミン市工科大学を中退し、文部科学省（当時）奨学生として、ベトナムからの学部留学生の 1 期生として来日。1998 年に東京大学工学部土木工学科を卒業後、同大学院へ進学、2003 年に同博士課程終了（博士（工学）取得）。卒業後ベトナムへ帰国し、交通計画分野の日系企業に就職しましたが、2004 年から国際協力機構（JICA）ベトナム事務所に転身しました。8 年間の勤務中、数多くの都市交通プロジェクトの運営監理に携わり、2012 年にはベトナム交通運輸省から記念勲章を受賞しました。2012 年に日本国籍以外では初となる JICA 総合職職員として採用され、ベトナム以

外にもラオス、ミャンマーなど開発途上国における都市交通、都市開発プロジェクトの形成・監理に関わりました。その間、2013年には土木学会の「国際協力活動賞」を受賞しました。

その後、2016年から日越大学にて勤務しています。研究テーマは、都市交通計画の中でも特に旅客の交通行動に関心をもっており、具体的には交通需要変動・予測に関する研究や交通時間の価値計測に関する研究などを行っています。本学では、英語、日本語、ベトナム語を流暢に話せる貴重な存在であるだけでなく、ベトナムの社会と制度、ベトナム側大学の仕組みや制度、さらにJICAの仕組みを理解している専門家として、日本・ベトナム間の橋渡しの役割も担っています。

同氏の穏やかな性格は、ベトナム側職員・教員や学生にも親しまれ、専門的な教育と研究の他、日本語教育にも積極的に参加するなど、大学内でも一目置かれる存在です。その親切な対応が学生の間でも評判となっており、社会基盤プログラムのみならず、他プログラムの学生からも高い人気を集めています。

### 3 プログラム紹介

#### 【第3回：社会基盤プログラム (MIE)】

前号に引き続き、日越大学修士課程の各専攻プログラム（MBA・公共政策・地域研究・ナノテクノロジー・環境工学・社会基盤）の学生や講義の様子などを紹介してまいります。今回は、社会基盤プログラム (MIE)をご紹介します。

社会基盤プログラムは、道路・鉄道・港湾・ダムなどのインフラ事業サイクル（計画・設計・施工・運営・維持管理）の他、インフラ利用者の行動やITシステム導入の影響に至る幅広い分野を対象とし、インフラ分野において日本・ベトナムのみならず国際市場で広く活躍できる人材の育成を目指しています。日本側では東京大学が幹事校をつとめ、茨城大学、大阪大学、昭和女子大学、拓殖大学、筑波大学、東京大学の教員からの協力を得て実施されています。またベトナム側では、ハノイ国家大学、土木大学、ハノイ交通大学、水資源大学の教員からの協力を得ており、講義のみならず、現場見学等を積極的に開催し、日系企業を中心とした連携に力を入れています。第1期生の7名は入学当初、英語での授業に苦戦した様子でしたが、各自の努力の結果、英語でのコミュニケーション能力が大きく向上し、講義内容の理解も大幅に改善されました。7名中6名の学生が9月初旬からインターンシップ生として日本へ渡り、修士論文の企画に沿った研究や日本での様々な活動に精力的に参加しています。第2期生の13名も大変明るく真面目で元気よく、1期生からの良き伝統を受け継いでおり、課外活動では唯一プログラム単位でチームを結成し、他プログラム連合チームとのサッカーを楽しんでいます。

### 4 イベント案内

### ・学生募集説明会の開催

2018年9月入学の第3期生募集活動の一環として、11月1日より3日にかけて、名古屋経済大学（愛知県犬山市）、早稲田大学（東京都新宿区）、立命館アジア太平洋大学（大分県別府市）の国内3箇所において、日本へ留学中のベトナム人留学生及びベトナム留学に関心を有する日本人学生等を対象とした「学生募集説明会」を開催いたします。本説明会では、日越大学古田学長、ヴー・ミン・ザン同理事・研究教育評議会議長による講演の他、日本に滞在中のインターンシップ生との交流や各プログラムの個別相談会も予定しています。日越大学 Facebook ページでもご案内しておりますので、ぜひご覧ください。

（11月1日 名古屋経済大学）

<https://www.facebook.com/events/292188944630305/>

（11月2日 早稲田大学）

[https://www.facebook.com/events/622246121498402/?acontext=%7B%22ref%22%3A%22%22%2C%22ref\\_newsfeed\\_story\\_type%22%3A%22regular%22%2C%22action\\_history%22%3A%22null%22%7D](https://www.facebook.com/events/622246121498402/?acontext=%7B%22ref%22%3A%22%22%2C%22ref_newsfeed_story_type%22%3A%22regular%22%2C%22action_history%22%3A%22null%22%7D)

（11月3日 立命館アジア太平洋大学）

<https://www.facebook.com/events/371711103265522/>

## 5 メディア情報

### ・留学ジャーナル誌への掲載

10月24日より、(株)留学ジャーナル発刊の留学専門誌「留学ジャーナル」ウェブサイト版に日越大学の広告が掲載されていますので、ぜひご覧ください。

<http://www.ryugaku.co.jp/rjnews/2017/10/vju.html>

### 【お問合せ先】

(独)国際協力機構 (JICA) 東南アジア・大洋州部内

日越大学構想・国内支援事務局 神田・新村

Tel: 03-5226-9065 E-mail: 1rtd3-vju@jica.go.jp

日越大学 HP <http://admission.vju.ac.vn/>

JICA HP <https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html>

日越大学 Facebook (ベトナム語) <https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts>

日越大学 Facebook (日本語) <https://www.facebook.com/jicavju/>

【メール配信停止・変更】

本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学構想・国内支援事務局（1rtd3-vju@jica.go.jp）までメールにてご連絡をお願いいたします。